

令和6年度 学校評価結果説明

上尾市立上尾小学校

教職員は年度当初より重点目標を意識した学年経営・学級経営を心掛けてきた。今年度の自己評価は昨年度と比較をするために、昨年度と同じ内容で評価をした。

【重点目標1 学年学級経営の充実】

児童が自分の存在感（居場所）、自己有用感を見いだせるように、各担任が学級経営の充実に努めた。児童一人一人を理解し、その児童にあった声掛けをするなど、多くの教職員が、丁寧に児童と向き合い信頼関係を築くように努力した。しかし、学級の中に自分の居場所をもてない児童が数名おり、別室に登校するなど対応中である。

【重点目標2 学習指導の充実】

教職員が、「主体的・対話的・深い学び」の視点にたち、児童の学力向上のために日々授業改善に努めた。また、今年度より学校課題研究を「児童の自ら学習を進める力＝自走力を高める授業づくり」とし、児童が自己決定をしながら学習を進め、必要に応じて協働的に学習を行うことで、自己有用感を高め、達成感を味わう事のできる児童の育成。また、教師が児童の自律をサポートすることで、目標をもち自主的自律的に学習を進める事ができる児童が育つであろうという仮説を立て授業改善を行った。学校課題研究を通して学んだことが、様々な教科で生かされるよう、お互いに授業を見合い研究を進め、児童の学力向上に努めた。また、教科担任制を2学年より導入し、教職員が質の高い教材研究と実践を積み重ねることで授業力の向上に取り組んだ。今年度よりオンラインドリルを導入して、個に応じた学習ができる環境を整えてきた。今後、更なる学力向上を目指し、時間を有効活用し、授業改善を行っていく。

【重点目標3 豊かな心と健康な体づくり】

昨年度に引き続き、教職員が週に1回の道徳の授業に真剣に取り組んだ。毎時間、道徳ノートに自分自身について考えたことを記入して振り返る活動を設定し、今後の生活でいかせるように指導した。

体育の学習では、体力や技能を高めるために体育カードに目標を書くなど、目標をもって取り組ませた。6月に実施した新体力テストの結果は昨年度と同様、埼玉県平均を下回る種目が多く、体育の授業の更なる改善や、体力向上への取組が必要である。

【重点目標4 生徒指導の充実】

縦割り班でいじめについて異年齢で考える時間を持ったり、いじめに関する標語を掲示して意識を高めたりすることにより、児童が「いじめ」には様々なものがあり、お互いに思いやりをもって過ごすことが大切であるという認識をあらためて持つことができた。また、毎月実施する指導相談委員会で、いじめの定義に沿ったいじめ認知と対応方法の確認を行い、教職員のいじめに対する共通理解を図り、いじめを見逃さずしっかり認知し、児童・保護者へ丁寧な対応を行った。今後は、更なる児童理解を図り、いじめを未然に防ぐことが必要である。

【重点目標5 開かれた学校づくりの推進】

学校ホームページを更新し、行事や学習の様子を公開した。また、運動会、校内音楽会、校内持久走大会の行事を実施・公開した。運動会は午前～午後までの長時間開催とすることで、地域の方の参観も多数あり好評だった。その他、授業参観を4回、学級懇談会を3回、学校公開日を2回、全家庭との個人面談を実施し、家庭や地域との連携を密にしてきた。

【重点目標6 特別支援教育の推進】

特別支援学級の児童との交流授業を行った。また、縦割り班遊びを通して、様々な学年の児童との交流を計画的に実施した。しかし、交流場面が以前より少ないこと、また支援学級の児童が在籍していない学級の交流が少なく、児童アンケートによる満足度の結果が低くなっている。

【重点目標7 幼保小中との連携の推進】

小中連携に関しては、上尾中学校区による小中一貫教育の研修と情報交換を行うことができた。令和8年度の全面実施に向け、全教職員が意識を高くもち、小中一貫教育を計画的に実践していく。

幼保小の連携に関しては、コロナ禍で途絶えていた交流行事が復活し、幼児を招いての交流学習や行事の実施を行った。今後さらに連携を強化し、小一問題に対応していくため積極的に進めていく必要がある。

【教職員事故防止】

昨年度と同様に高い数値となった。「上尾小学校の教職員は絶対に教職員事故を起こさない」の合い言葉で、互いを厳しくチェックし合い、今後も「事故0」を続けていく。

また、教職員のマナーアップを目指し、あいさつ、言葉遣い、時間厳守、整理整頓、服装、電話対応、立ち振る舞いなどに注意して勤務した。教職員の自己評価、保護者アンケートの結果共に高い数値となった。